

【5】 都城地区小学校体育連盟 研究のあゆみ

I 年間事業について

期 日	曜	会名 等	主な内容	会 場
5月13日	水	教科主任会	研究推進	西小学校
6月 2日	火	第1回常任理事会	研究推進、水泳教室計画	早水公園体育文化センター
6月16日	火	第1回理事会	研究推進、水泳教室打合せ	早水公園体育文化センター
6月27日	土	小学校教職員ミニバレーボール大会		三股町武道館
7月23日	木	水泳教室前日準備		各 会 場
7月24日	金	第64回都城市水泳教室		各 会 場
		三股町小学校水泳記録会		三股西小学校
8月 4日	火	第2回常任理事会	水泳教室反省、研究推進、 陸上教室計画	早水公園体育文化センター
8月25日	火	第2回理事会	水泳教室反省、研究推進、 陸上教室計画	早水公園体育文化センター
10月15日	木	三股町小学校陸上記録会 前日準備		三股小学校
10月16日	金	三股町小学校陸上記録会		三股小学校
10月20日	火	第3回理事会	研究推進、陸上教室選手名 簿確認	早水体育文化センター
10月27日	火	第66回都城市小学校陸上運動教室		都城市陸上競技場
11月10日	火	第3回常任理事会	授業研究会指導案検討	早水公園体育文化センター
11月24日	火	第4回理事会	授業研究会指導案検討	早水公園体育文化センター
12月 2日	水	都城市・三股町地区合同教育研究会	授業研究会 (研究授業・授業研究会)	丸野小学校
2月23日	火	第5回理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター

※ 6月11日(木) 小体連・中体連・高体連合同体育授業研究会 都城東高等学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳教室

- (1) 大会名 第64回都城市小学校水泳教室：三股町小学校水泳記録会
- (2) 実施日 7月24日
- (3) 会場 都城市内10会場：三股西小学校
- (4) 出場者 小学校5・6年生
- (5) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ) 50m(自由形・平泳ぎ)、100mリレー

2 陸上教室

- (1) 大会名 第65回都城市小学校陸上教室、三股町小学校陸上記録会
- (2) 実施日 10月27日(都城市) 10月16日(三股町)
- (3) 会場 都城市陸上競技場、三股町立三股小学校
- (4) 出場者 小学6年生
- (5) 実施種目 100m走 50mH 持久走(男子1000m 女子800m)
走り高跳び 走り幅跳び ソフトボール投げ 400mリレー

※ 水泳教室及び陸上運動教室ともに、都城地区小学校体育連盟による競技規則を適用する。
 ※ 参加児童の親睦を図り、友情を育てることとして陸上運動教室ではジェンカを実施した。
 また、教室という趣旨に基づき、模範泳や模範競技を取り入れた。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～器械運動の学習を中心に～

2 主題設定の理由

新学習指導要領では体育科の究極の目標である「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを目指し、小学校においては、「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」こと

や

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」こと、中でも「運動に親しむ資質や能力の育成」と「健康の保持増進」、「体力の向上」の三つの目標が密接に関連していることが示されている。

特に「運動に親しむ資質や能力」については、運動への関心や自ら運動をする意欲、友達と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり、工夫したりする能力、運動の技能などを指して、これらの基礎を確実に育成することが重要となる。これらの資質や能力を育成するためには、児童の能力・適性・興味・関心などに応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が重要である。

都城地区では、児童の体力向上を目指し、体づくり運動の単元を通して進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方について研究を進めてきた。よい体育の授業を目指すために、教師の手立てとして発問の在り方や太鼓を使った効率のよい学習訓練、準備や片付けの時間も含めた運動量の確保などについて工夫してきた。児童への手立てとして、「わくわく体育の6つのOK」を用いて規律の定着を図り、仲間とのかかわりを重視して、意欲の向上を図ってきた。これらの研究を通して、体づくり運動については地区全体に広がりを見せている。

昨年度は、都城地区の教師に対しアンケートを行った結果をもとに、進んで学習に取り組み、楽しさを味わう体育科学習について、器械運動を中心に研究を進めてきた。

単元構成の中に集団での演技を取り入れることで、仲間とのかかわりをもたせ、技や演技などの課題に向けて児童が互いに学び合う姿をみることができた。

また、一つ一つの技ができるようになるための技能について研修を進めることで、児童に技への取り組み方を示すことができた。しかし、集団での演技の取り入れる中で、技の完成度が高められるような単元構成や指導の在り方について課題が残った。

そのため本年度は、個々の児童に応じてつまずきを解消していくために、学習内容について教材分析を行い、発達段階に応じた指導内容を明確にしていく。単元構成を改善し、授業中の観察と合わせて学習カードの活用について研究していく。教材分析の成果を運動事例集に反映していく中で技の前後や各項目との関連を明らかにし、実践をもとに修正を加えていく。

このような取組に加えて、昼休みや放課後、家庭でも取り組めるような運動を紹介することで、運動の日常化を図る。

仲間とのかかわりながら演技する楽しさや、技を習得する喜びが味わえるようにしていきたいと考え、本主題を設定した。器械運動における指導の在り方について研修を進めていきたい。

3 研究の仮設

器械運動の学習を通して、仲間とのかかわりを通して技の高まりを実感できるような学習過程を工夫し技に関連する易しい運動を適宜取り入れれば、運動に進んで取り組むことができるであろう。

4 研究の内容

(1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

- 器械運動の教材分析
- 指導方法について

(2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

○ 小体連だより「なかま」の作成・発行

5 研究の実際

(1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

○ 器械運動の教材分析

昨年度に引き続き、技の指導内容について分析した教師用を作成し、それをもとに児童が学習プリントとして活用できるように児童用を作成した。

昨年はそれぞれの技を細かく区切ってポイントを確認していったが、今年度はつながりを意識して分かりやすくするために3つの段階に分けて説明を作っていた。

ア 技の評価について

学習指導要領の指導内容を確認し、示すようにした。

イ 技の系統表について

児童が自分の能力にあった技に取り組むために、それぞれの技を回転系や倒立系に分けて、系統を示した。教材分析をもとに説明をつけていった。

○ 指導方法について

集団演技を取り入れても、または取り入れなくても技の完成度が高められるような単元構成や指導の在り方について、学習カードなどの手立てや、場の工夫について昨年度をもとに考えていった。

① 単元計画の工夫

児童が仲間とかかわりながら技に取り組むことで楽しさを感じたり、技ができるようになる喜びを味わったりできるようにするために、単元計画を作成した。倒立系の技については、感覚を身に付けさせるために、毎時間準備運動の中で取り組んでいくことにした。

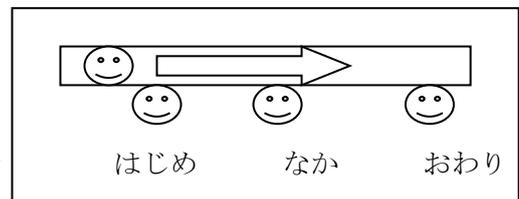
オリエンテーション	ステージ1	ステージ2	発表会
準備運動（倒立系を含む）・学習課題の確認・わくわく体育6つのOK			
技の確認	基本的な回転技に取り組む	基本的な倒立技に取り組む	演技発表会
課題設定	○ 自己の能力に適した技に取り組ませる。	○	
モデル提示	○ 技がある程度できるようにする。 ○ 練習の仕方を学ぶ。 ○ 場の作り方を学ぶ。	○ できない技に挑戦する。	
グループ分け	グループでの練習	グループでの練習	
集団演技の形の形成	○ 演技練習 ○ ペアでの練習 ○ 演技練習	○ 演技練習 ○ ペアでの練習 ○ 演技練習	
整理運動・振り返り・次時の学習内容の確認			

② 1単位時間の指導の在り方

効率よく技の完成後を高めるために、初めて取り組む技や確認については一斉で指導を行う。

その後は児童同士で学び合うことができるように、グループで学習を進める。互いに技を3カ所からチェックし、アドバイスができるようにした。

準備、片付けも含めて授業とし、少ない時間でできるように工夫することで運動量を確保した。



③ オリエンテーションの在り方

学年の段階に応じて今できる技とまだできない技を確認し、技の発表会の内容を検討する。技の映像や学習カードなどをもとに一つ一つの技の雄大さや美しさを確認し、単元計画表で学習の進め方について知らせる。

わくわく体育6つのOKをもとに学習規律の確立を目指し、片付けを含めて授業となるこ

とを説明し、安全面やルールについて確認する。

(ア) 器械運動の技の紹介

器械運動では、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりする時に楽しさを味わうことができることを知らせる。既習内容については、今までより雄大で美しい動きができるようになる楽しさや喜びを感じられるようにする。児童同士で技を見せ合い、互いによいところを認め合うことで高めることができることを伝える。

これらを通して、学習の雰囲気が明るく、肯定的になるようにする。

技は、分解図をもとに3つの段階に分けて説明する。模範がなくても児童の姿をもとにどこがどうなればいかに説明していくとよい。(例 準備、転がる、起きる)

(イ) 単元計画の説明

学習の流れを説明し、場の作り方、安全面について確認する。

ア 学習の流れ

1 単位時間における活動内容の確認をする。準備運動、本時の内容の確認、場の確認、活動、振り返りについておさえる。

イ 単元全体の流れ

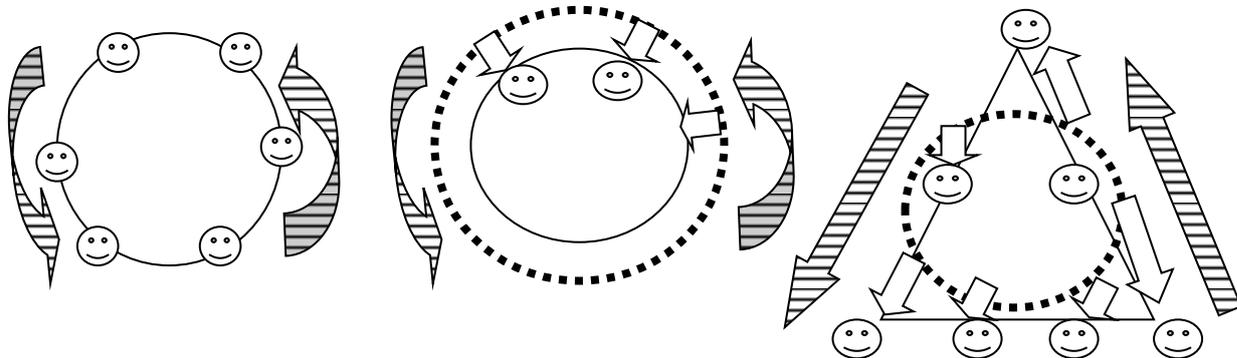
単元の終わりに発表会があり、そこでできるようになることを確認する。集団での演技を取り入れる場合、ワークシートをもとに説明する。

※ 集団演技の説明

- グループを作って、3つの形を決める。(丸、三角、川並び等)
- 1つ目の形から2つ目までにどのように移動するかを決める。
- 立つ場所を決める。

※ 模範を見せる。

- 教師が子どもを使って説明する。
- 技は前転のみで行う。その後学習した技は入れてもよいことを確認する。



ウ 児童の実態把握

既習の技について動画としてビデオなどに撮っておく。3つの段階のどこでつまずきがあるか把握することで、練習する場を決めることができる。

(2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

- 小体連だより「なかま」の作成・発行

昼休みや放課後、家庭でも取り組めるような運動を紹介した。

6 研究の成果と課題

- 成果

技の分解図を使って教材分析を行い、児童が使える資料を作成することで、児童が主体的に運動に取り組み、技の完成度が高めることができた。

- 課題

技の構造的特性や機能的な特性について研究を進め、1つ1つの技の指導内容について精選していく必要がある。